

宮城県における堆肥センターの活動について

宮城県産業経済部畜産家主任主査
石川 知浩

はじめに

本県は、東北地方の南東部、太平洋側に位置し、東西47km、南北130kmに広がり、総面積7,285km²、我が国の総面積の約1.9%（16位）を占める。

県土の西部一帯は、1,500m以上の標高を有する奥羽山脈が連なり、北東部には北上高地、南部に阿武隈高地が走り、これらの周縁から標高100m前後の丘陵地帯が広く分布し、北上川、阿武隈川などによってつくられた豊かな穀倉地帯で、東北一の沖積平野が広がっている。太平洋に面する海岸部は、北は複雑なリアス式海岸（南三陸）が続き、南は砂浜海岸となっている。

気候は、東北地方としては温暖で、降雪が少ないのが特徴である。

本県の農業は、産出額が2,110億円（H14年）で、そのうち米が1,006億円（48%）、畜産658億円（31%）、野菜294億円（14%）、その他152億円となっており、畜産は米に次ぐ基幹作目となっている。畜種別では、乳用牛が162億円、肉用牛が174億円、豚が120億円、鶏が199億円となっている。

本県の畜種別の飼養戸数・頭羽数は表-1のとおりである。

表-1 宮城県の飼養戸数・頭羽数（平成16年2月1日現在 単位：頭、千羽）

区分	宮城県					全国から見た本県の位置付	全国に占める本県の割合
	飼養戸数	頭羽数	一戸当たり頭羽数	対前年比			
				戸数	頭羽数		
乳用牛	986	30,300	30.7	95.7	97.7	9位	1.8%
肉用牛	7,070	98,500	13.9	96.8	98.6	7位	3.5%
豚	405	238,300	588.4	88.8	102.2	14位	2.5%
採卵鶏	78	4,003	51.3	87.6	93.2	14位	2.9%
ブロイラー	54	1,460	27.0	125.6	890.2	17位	1.4%

1 堆肥の利用促進に向けた取組

県内の主な堆肥センターは、県北部を中心に20ヶ所が稼働しており、このうち5ヶ所が16年度の新設稼働である。堆肥センターは、町村、JA、営農集団等で設置しており、管理はJA、営農集団等である。各たい肥センターでは、良質堆肥の生産に向けては、搬入時の水分や搬入計画の調整等様々な点で利用農家と連携を取りながら円滑な堆肥センター運営に努めている。

県としても、関係者を対象に堆肥利用促進に向けた各種研修会や検討会等を開催するとともに各種情報の提供・収集を行っている。また、各地域においても市町村・JA・県（地域農業改良普及センター、家畜保健衛生所等）が連携し、展示ほの設置や各種調査等を実施し、利用の促進に向けた取組を行っている。

<原料別によるたい肥センター数>

牛のみ8ヶ所 牛+鶏1ヶ所

<堆肥センターの製品価格>

バラ：3,500～8,000円/t

豚のみ1ヶ所	豚+鶏1ヶ所
牛+豚7ヶ所	牛+豚+鶏2ヶ所

袋 : 350~500 / 15kg
* 他に20kg、20~40 ^{リットル} 有り



おわりに

本県においても、良質堆肥を広域に供給出来る体制は着実に整備されてきている。しかし、利用の促進に向けた取組についてはいくつかの課題もあり、解決に向けた対応が必要である。今後は、更に耕種農家との連携を図るとともに、堆肥のPRや品質の均一化など利用促進へ向けた取組に努める必要があると考えている。

堆肥センターを訪ねて

堆肥センターの中でも耕畜生産に積極的に取り組んでいる堆肥センターを紹介したいと思う。

1名称、所在地

豊里町有機肥料センター(宮城県登米郡豊里町)

2地域の概要

豊里町は県の北東部、登米郡の最南端に位置する。三方を北上川、旧北上川、迫川に囲まれた豊かな水資源、肥沃な土壌と農業には最適な条件となっている。

豊里町の農業は、水稻を基幹作物とし、畜産との複合経営を中心に発展してきたが近年は、大規模な施設園芸も見られるようになった。畜産も酪農、肉用牛を中心に規模拡大が進展し、後継者も確保され着実に発展を遂げている。

3経営の概要

豊里町有機肥料センターは、中心となり設置を進め平成13年度から稼働している。原料は、乳用牛、肉用牛、豚ふんで、副資材としてもみ殻、戻し堆肥を利用している。

特長

- ① 良質堆肥の生産: 有機肥料センターの円滑な運営のため利用農家34戸からなる利用組合を設立し、各種会議を開催し、搬入条件の設定、搬入計画等の調整に努めている。また、違反者にはペナルティーを科すなど厳しい対応をしており、良質堆肥の生産に努めている。
- ② 転作集団連絡協議会との連携: 町には17組合から組織される転作集団連絡協議会がある。組合では、転作田約300ha(麦:120ha、大豆:113ha、飼料作物62ha)に有機肥料センターで生産された堆肥の利用に積極的に取り組んでいる。飼料作物については畜産農家が利用しており、有機肥料センターを核とした地域循環型農業が図られている。



(財)畜産環境整備機構の発行の書籍の御案内

「家畜ふん尿処理施設の設計・審査技術」

定価2,000円 (消費税・送料込み)

これまでの畜産環境アドバイザー養成研修会（堆肥化、汚水処理、臭気・新技術）の施設設計計算に関する内容を1冊にまとめました。スキルアップ、現地検討会の参考資料として御活用下さい。

申込先

**(財)畜産環境整備機構(普及情報部)あて
TEL03-3459-6300 FAX03-3459-6315**